

# 製品安全データシート

## 1. 製品及び会社情報

製品名 Aquapel®ガラス処理剤  
製品コード 47100, 47101, 47102, 47103, 98990A, 98994  
会社名 Pittsburgh Glass Works, LLC  
住所 30 Isabella Street  
Suite 500  
Pittsburgh  
Pa  
15212  
US  
電話番号 お問い合わせ（平日8時～17時）： +1-800-861-4999  
電子メールアドレス info@pgwglass.com  
緊急連絡電話番号 米国 +1-760-476-3962  
ヨーロッパ、中東、アフリカ +1-760-476-3961  
アジアパシフィック +1-760-476-3960  
アクセスコード 333225

### 推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 ガラス表面の撥水処理剤。  
整理番号 01-M

## 2. 危険有害性の要約

### GHS 分類

健康に対する有害性	急性毒性（吸入） 皮膚腐食性/刺激性 特定標的臓器毒性（単回暴露） 特定標的臓器毒性（単回暴露） 吸引性呼吸器有害性	区分外 区分3 区分3 麻酔作用 区分3 気道刺激性 区分1
-----------	--	--

\*上に記載がない危険有害性は、「区分外」、「分類対象外」または「分類できない」である。

### GHSラベル要素

#### 絵表示



#### 注意喚起語

危険

#### 危険有害性情報

軽度の皮膚刺激。 眠気やめまいのおそれ。 呼吸器への刺激のおそれ。 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

### 注意書き

#### 安全対策

ミスト/蒸気/スプレアの吸入を避けること。 屋外または換気のよい場所でのみ使用すること。

#### 応急措置

飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。 吐かせないこと。 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。

#### 保管

施錠して保管すること。 換気の良いところで保管すること。 容器を密閉して保管する。

#### 廃棄

内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

### その他の危険有害性情報

知見なし。

### 重要な兆候

眼と気道を中等度に刺激する。 長期または反復接触により皮膚が乾燥し刺激されることがある。

### 非常事態の概要

注意

飲み込むと有害。 肺に入り、損傷を起こすことがある。 長期または反復接触により皮膚が乾燥し刺激されることがある。

## 3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

成分	CAS番号	化審法	安衛法	含有量 (%)
蒸留(石油), 水素化処理軽物質	64742-47-8	(9)-1700	(9)-1700	60 - 100

組成情報 ガス以外の成分は重量パーセントで示す。ガスの濃度は容量パーセントで示す。

#### 4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸が止まっている場合、専門家に人工呼吸を設置または酸素吸入を施してもらう。
皮膚に付着した場合	直ちに多量の水で15分以上流し、その間に汚染された服や靴を取り去る。入手できる場合には石けんを使用しなければならない。刺激が強まったり続いたりする場合は、医師の診察を受ける。再使用する前に、衣類を別に洗濯しなければならない。
目に入った場合	直ちに多量の流水で15分間以上目を洗浄する。コンタクトレンズ類を取り外す。刺激が強まったり続いたりする場合は、医師の診察を受ける。
飲み込んだ場合	飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。口を十分にゆすぐ。医師の指示なしに吐かせてはならない。もし嘔吐が起こったら、胃からの嘔吐物が肺に入らないよう頭部を下げる。
予想される急性症状及び遅発性症状	刺激効果、皮膚の乾き。
最も重要な徴候及び症状	暴露後24時間以内に化学性肺炎の症状（息切れ）を起こすことがあるので注意する。
応急措置をする者の保護	暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けること。被害者の観察を続ける。
医師に対する特別な注意事項	症状にあった治療を施す。

#### 5. 火災時の措置

消火剤	泡消火薬剤。乾燥粉末。二酸化炭素 (CO2)。水噴霧または霧状の水
使ってはならない消火剤	消火に水噴射をしない。これは火災を拡散することになる。
火災時の特有の危険有害性	火災によって、刺激性、腐食性および/または有毒な気体が発生する可能性がある。
特有の消火方法	火災や爆発の場合、フュームを吸入してはならない。消防士は、防火衣、フェースシールド付きヘルメット、手袋、ゴムブーツを含む標準的な防護衣を着用しなくてはならない。密閉された場所では、自給式呼吸器 (SCBA) も使用する。
消火を行う者の保護	消防士は、防火衣、フェースシールド付きヘルメット、手袋、ゴムブーツを含む標準的な防護衣を着用しなくてはならない。密閉された場所では、自給式呼吸器 (SCBA) も使用する。消防士用防護服は構造的に、限定した場合の保護に使用する。

#### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	すべての着火源を消す。火花、火炎、熱および発煙を避ける。関係者以外の立ち入りを禁止する。流出が著しくて回収できない場合は、現地当局に通告すべきである。適切な保護衣を着用せずに、壊れた容器または流出物に触らない。蒸気または霧を吸入しないようにしてください。
環境に対する注意事項	製品で水を汚染しない。
封じ込め及び浄化の方法・機材	大量の漏出：危険を伴わずに出来る場合には、物質の流れを止める。パーミキュライト、砂、土などの非可燃性材料を用いて製品を吸収し、廃棄のため容器に収める。 少量の漏出：吸収材（例：布、フリース）で拭き取る。残った汚染を取り去るには、床を徹底的に清掃すること。 元の容器に回収して再使用することは絶対に避けること。上水道、下水道、地下室または閉鎖されたエリアに侵入させないようにしなければならない。もし危険を冒さずにできる場合は、漏れを止める。可能な場合は漏出した液体をせき止める。残った汚染を取り去るには、床を徹底的に清掃すること。吸収材（例：布、フリース）で拭き取る。後に処分するために流出物の前方に土手を築く。清潔で火花の出ない器具を使って吸収された物質を集める。
二次災害の防止策	少量の漏出： 大量の漏出：パーミキュライト、砂、土などの非可燃性材料を用いて製品を吸収し、廃棄のため容器に収める。 元の容器に回収して再使用することは絶対に避けること。全ての適用法律に基づき掃除する。環境への放出を避けること。

#### 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	適切な換気装置を使用する。
局所排気・全体換気	換気が不適切な場合は呼吸用保護具を使用する。
注意事項	この安全データシートの第8項に記載された保護衣を着用する。この製品を使用するときは飲食および喫煙をしない。味を見たり飲み込んだりしてはならない。ミストや蒸気を吸うのを避ける。皮膚、眼、そして衣服との接触を避ける。取扱い後はよく洗うこと。
安全取扱い注意事項	MSDSのセクション8で推奨された人員保護装置を使用すること。

<b>保管</b>	
<b>技術的対策</b>	直射日光を避ける。避けるべき物質の近くに保管しない。飲食物や動物飼料から離しておきます。容器を密閉する。フタがない、またはラベルの付いていない容器には保管しない。子供の手の届かないように保管すること。
<b>適切な保管条件</b>	現地・地域・国・国際法に従い保存する。換気のよい冷所に、最初の容器中でのみ保管する（容器を移し替えてはならない）。
<b>混触危険物質</b>	強酸化剤、強酸および強塩基。
<b>安全な容器包装材料</b>	元の容器に保管する。

## 8. 暴露防止及び保護措置

<b>設備対策</b>	適切な全体換気・局所排気装置を設置する。洗眼設備を設置する。
<b>保護具</b>	
<b>呼吸器の保護具</b>	空気中の濃度を推奨曝露限界（適用できる場所で）、または許容レベル（曝露限界が確立していない国）を工学技術管理が下回らない場合、推奨マスクを着用しなければならない。管理不能な放出が起こるおそれがあり、暴露のレベルが不明である場合、ろ過式呼吸保護装置では十分な防護機能が得られないその他の環境では、正圧式呼吸保護装置を使用しなければならない。
<b>手の保護具</b>	長時間または繰り返し接触する場合は、耐化学品手袋が必要である。ニトリル製手袋が望ましい。しかし液体は手袋を通して浸透することがあるので注意する。頻繁に交換することが望ましい。適切な手袋は、手袋の専門業者に推奨してもらうこともできる。
<b>目の保護具</b>	サイドシールドのついた安全眼鏡（またはゴーグル）を着用する。
<b>皮膚及び身体の保護具</b>	大量を扱う場合または緊急時には、全身防護服とブーツが望ましい。
<b>適切な衛生対策</b>	眼に入れない。皮膚に触れないようにする。本物質を衣服に接触させない。使用中は飲食や喫煙をしない。飲食物から遠ざける。適切な産業衛生および安全対策のもとに取り扱う。

## 9. 物理的及び化学的性質

<b>外観</b>	
<b>物理的状态</b>	液体。
<b>形状</b>	液体。
<b>色</b>	無色
<b>臭い</b>	炭化水素様の臭気。
<b>臭気閾値</b>	該当しない。
<b>pH</b>	データなし。
<b>融点・凝固点</b>	データなし。
<b>沸点、初留点及び沸騰範囲</b>	218 - 257 ° C (424.4 - 494.6 ° F)
<b>引火点</b>	> 94 ° C (> 201.2 ° F)
<b>自然発火温度（発火点）</b>	> 200 ° C (> 392 ° F)
<b>燃焼又は爆発範囲－下限</b>	0.6
<b>燃焼又は爆発範囲－上限</b>	4.9
<b>蒸気圧</b>	0.012 kPa
<b>蒸気密度</b>	データなし。
<b>比重</b>	データなし。
<b>溶解性</b>	データなし。
<b>n-オクタノール／水分配係数</b>	データなし。
<b>分解温度</b>	データなし。

## 10. 安定性及び反応性

<b>安定性</b>	通常の条件では安定。
<b>危険有害反応可能性</b>	危険な重合はおこらない。
<b>避けるべき条件</b>	混触危険物質との接触。高温にしてはならない。直射日光を避ける。
<b>混触危険物質</b>	強酸化剤、強酸および強塩基。
<b>危険有害な分解生成物</b>	炭素酸化物。塩化水素。

## 11. 有害性情報

<b>急性毒性</b>	蒸気により眠気とめまいを生じる恐れがある。
<b>皮膚腐食性/刺激性</b>	軽度の皮膚刺激。
<b>眼に対する重篤な損傷/眼刺激性</b>	直接目に接触すると一時的に刺激を起こすことがある。
<b>呼吸器感作性</b>	区分外。
<b>皮膚感作性</b>	この製品は、皮膚感作を引き起こすとは思われない。
<b>生殖細胞変異原性</b>	本製品あるいは製品中に0.1%以上含有する成分に関して、変異原性または遺伝子毒性があることを示すデータはない。
<b>発がん性</b>	本製品は、IARC、ACGIH、NTPおよびOSHAにより発がん性であるとは考えられていない。
<b>生殖毒性</b>	生殖に対して毒性のある物質のリストに掲載されている成分は含まれていない

特定標的臓器毒性（単回暴露）

眠気およびめまいのおそれ。 気道へ刺激を与える原因となる

特定標的臓器毒性（反復暴露）

健康上の有害性に関する知識は不完全である。

吸引性呼吸器有害性

飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

## 12. 環境影響情報

生態毒性

この製品の成分は、環境に対して危険有害性であるとは分類されていない。しかし、これは大量または頻繁な流出が環境に対して有害性または損害を与える作用を有するかもしれない可能性を排除するものではない。

残留性/分解性

速やかに生分解が起こると予想される。

生体蓄積性

ない。

土壌中の移動性

この製品は水に溶けない。

## 13. 廃棄上の注意

地域の廃棄規制

空の容器には製品の残留物が含まれているおそれがある。 内容物/容器を現地/地域/国/国際法律に従って処理する。

## 14. 輸送上の注意

国際規制

IATA

危険物には該当しない。

IMDG

危険物には該当しない。

輸送の特定の安全対策及び条件 該当しない。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法

特化則

第一類物質

該当せず。

第二類物質

該当せず。

第三類物質

該当せず。

有規則

第一種有機溶剤

該当せず。

第二種有機溶剤

該当せず。

第三種有機溶剤

蒸留（石油）、水素化処理軽物質（CAS 64742-47-8）

通知対象物

ミネラルスピリット

95 - 100%

表示対象物

該当せず。

毒物及び劇物取締法

特定毒物

該当せず。

毒物

該当せず。

劇物

該当せず。

化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律

第一種特定化学物質

該当せず。

第二種特定化学物質

該当せず。

第一種監視化学物質

該当せず。

第二種監視化学物質

該当せず。

第三種監視化学物質

該当せず。

化学物質排出把握管理促進法

特定第一種指定化学物質（物質名、政令番号、含量）

該当せず。

## 化学物質排出把握管理促進法

第一種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)

該当せず。

第二種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)

該当せず。

消防法

該当せず。

船舶安全法・危規則

該当せず。

航空法・施行規則

該当せず。

火薬類取締法

該当せず。

高圧ガス保安法

該当せず。

海洋汚染防止法

該当せず。

## 16. その他の情報

### 引用文献

JIS Z 7250: 2005化学物質等安全データシート (MSDS) - 第一部: 内容及び項目の順序

日本化学工業協会GHS対応ガイドライン、平成20年10月

IARC発がん性評価モノグラフ

日本産業衛生学会、許容濃度等の勧告

このデータシートに含まれる情報は、現在の科学的および技術的知識に基づいています。この情報の目的は、PGWにより供給された製品に関する健康および安全面の注意を喚起すると共に、製品の保管と取り扱いに対する予防措置を推奨することにあります。このデータシートに記載されている予防措置のあらゆる遵守不履行、または製品のあらゆる誤使用に関して、一切の責任を負わないものとします。

版番号

01

発行日

2010/09/14

改訂日

2010/09/14